

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検・評価結果報告書（令和6年度対象）

令和7年8月
上峰町教育委員会

目 次

＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の概要＞	1
1 根拠法	
2 点検及び評価の内容	
3 点検及び評価の方法	
4 点検及び評価の経過	
5 今後の予定	
＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の結果＞	2
1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況	2
（1）上峰町教育委員会の運営状況	2
① 教育委員会	
② 教育委員会事務局	
（2）上峰町教育委員会の活動状況	4
① 教育委員会会議の開催状況と審議概要	
② 活動の状況	
ア 総合教育会議への出席	
イ 学校等教育現場への訪問	
ウ 視察・研修会等への参加	
エ 各種会議・行事等への出席	
2 令和6年度主な事業・取組の評価シート	6
（上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組）	
（1）教育課所管分	6
（2）生涯学習課所管分	15
（3）文化課所管分	24

＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の概要＞

1 根拠法：「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の内容

- (1) 令和6年度上峰町教育委員会の運営及び活動状況
- (2) 上峰まちづくりプラン（2021～2028）後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組

3 点検及び評価の方法

上峰町教育委員会の運営及び活動状況、主要施策及び主な取組について、実績並びに成果と課題等を取りまとめ自己評価を行った後、教育に関する学識経験者（重松隆氏：元小学校校長、元佐賀県教育センター研究員）からの外部評価。

4 点検及び評価の経過

- (1) 令和7年 6月中旬～7月中旬 令和6年度主な事業・取組の評価シート作成
- (2) 令和7年 6月下旬 学識経験者への外部評価の依頼
- (3) 令和7年 7月中旬～下旬 自己評価の実施
- (4) 令和7年 7月下旬～8月上旬 学識経験者による外部評価の実施
- (5) 令和7年 8月上旬 点検評価報告書の作成
- (6) 令和7年 8月下旬 教育委員会による点検評価報告書の審議及び承認

5 今後の予定

- (1) 令和7年9月上旬 上峰町議会に点検評価報告書を提出
- (2) 令和7年9月上旬 点検評価報告書を上峰町教育委員会ホームページにて公表

＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の結果＞

1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況

(1) 上峰町教育委員会の運営状況

① 教育委員会

役職名	氏 名	任 期（当初就任年月日）
教育長	野 口 敏 雄	R 6. 4. 2～R 9. 4. 1 (H30. 4. 2)
教育長職務代理者	平 川 未 代	R 4. 4. 1～R 8. 3. 31 (H30. 4. 1)
教育委員	馬 場 紘 彦	R 6. 4. 1～R10. 3. 31 (H24. 10. 27)
教育委員	平 川 利 彦	R 3. 4. 1～R 7. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	片 渕 賢 司	R 5. 4. 1～R 9. 3. 31 (H31. 4. 1)
教育委員	原 晋 介	R 3. 4. 1～R 7. 3. 31 (H27. 4. 1～ H31. 3. 31)
教育委員	松 井 結 華	R 6. 4. 1～R10. 3. 31 (R 2. 4. 1)
教育委員	鶴 田 光 代	R 4. 4. 1～R 8. 3. 31 (R 4. 4. 1)
教育委員	古 川 美 穂	R 5. 4. 1～R 9. 3. 31 (R 5. 4. 1)

令和 7 年 3 月 31 日現在

② 教育委員会事務局

課 名	担 当 事 務
教 育 課 (8 人)	1 教育委員会の会議に関する事。 2 事務局、学校その他の教育機関の職員の任免、分限及び懲戒に関する事。 3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出に関する事。 4 工事計画の策定及び教育財産の取得の申出に関する事。 5 教育機関の設置、管理及び廃止に関する事。 6 教育財産の管理に関する事。 7 教育委員会規則の制定及び改廃に関する事。 8 請願、陳情書等の処理に関する事。 9 公告式に関する事。 10 公印の看守に関する事。 11 文書の収受、発送及び編さんに関する事。 12 学校給食に関する事。 13 児童及び生徒の就学に関する事。 14 その他の学校教育に関する事。 15 放課後児童健全育成事業及び留守家庭児童健全育成事業に関する事。 16 いじめを根絶する取組に関する事。 17 子ども安全パトロールに関する事。

	18 その他の子どもの安全に関すること。 19 総合教育会議に関すること。 20 県費負担教職員の服務に関すること。 21 県費負担教職員の研修及び福利厚生に関すること。 22 県費負担教職員の任免、分限及び懲戒の内申に関すること。 23 学級編制に関すること。 24 教育内容及びその取扱いに関すること。 25 教科書その他教材の取扱いに関すること。 26 学校保健に関すること。 27 学校安全に関すること。 28 高等学校教育課程に関すること。 29 その他他係の所掌に属しないこと。
生涯学習課 (6人)	1 社会教育機関の運営に関すること。 2 生涯学習審議会委員の任命並びにそれらの会議に関すること。 3 社会教育関係団体の指導育成に関すること。 4 講座の開設及び討論会、講習会、研修会、講演会、展示会その他の集会の開催並びにこれらの奨励に関すること。 5 社会教育資料の刊行及び配布に関すること。 6 社会教育のために必要な設備、及び資料の提供に関すること。 7 情報の交換及び調査研究に関すること。 8 視聴覚教育に関すること。 9 視聴覚ライブラリーに関すること。 10 青少年育成に関すること。 11 地域のおじさん、おばさん及び110番の家に関すること。 12 命の大切さ、子どもたちの心を鍛える事業に関すること。 13 子どもの悩み相談室に関すること。 14 その他の社会教育に関すること。 15 スポーツ振興審議会及びスポーツ推進委員会の委員の任命及びそれらの会議に関すること。 16 体育スポーツ指導者養成及び体制の確立に関すること。 17 体育スポーツ関係団体の育成に関すること。 18 住民スポーツの生活化に関すること。 19 スポーツ事故に関すること。 20 スポーツ施設及び設備に関すること。 21 その他、スポーツ振興に関すること。
文 化 課 (7人) 図書司書 3人を含む	1 文化財の保護に関すること。 2 図書館に関すること。 3 歴史資料の保管及び整理に関すること。 4 文化及び芸術の向上に関すること。 5 その他文化の伝承に関すること。

令和 7 年 3 月 31 日現在

(2) 上峰町教育委員会の活動状況

① 教育委員会会議の開催状況と審議概要

会議種別	開催期日	主な審議事項
定例会	R 6. 4. 24	就学援助認定について 令和 6 年度中学校日韓交流事業について
定例会	R 6. 5. 22	「学びの場」ふるさと学館の今後の在り方 中心市街地再開発事業の進捗状況について
定例会	R 6. 6. 26	放課後児童健全育成事業負担金徴収条例施行規則の一部改正 留守家庭児童健全育成事業負担金徴収条例施行規則一部改正 上峰町民プールの設置及び管理に関する規則について
定例会	R 6. 7. 24	小・中学校からの 1 学期学校経営報告 9 月補正予算要求について 就学援助認定（追加分）について
臨時会	R 6. 8. 21	令和 7 年度以降使用中学校用教科用図書の採択について 令和 5 年度教育事務の管理及び執行の点検・評価結果
定例会	R 6. 9. 25	就学援助認定（追加分）について 9 月定例議会報告 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果について
定例会	R 6. 10. 23	12 月補正予算要求について 令和 6 年度学力向上フォーラム
定例会	R 6. 11. 27	就学援助認定（追加分）について 上峰小学校建設委員会に関する協議事項 総合教育会議について～教職員の働き方改革の進捗状況
定例会	R 6. 12. 17	小・中学校からの 2 学期学校経営報告 卒業式・入学式日程及び来賓について
定例会	R 7. 1. 22	令和 7 年度当初予算における主な歳出について 神村学園高等部上峰校舎開校に向けた進捗
定例会	R 7. 2. 26	令和 7 年度上峰町教育方針について 令和 6 年度末小・中学校教職員管理職付議について 就学援助認定（追加分）について
定例会	R 7. 3. 25	小・中学校からの令和 6 年度学校経営報告 令和 6 年度末教職員人事異動学校出入報告 町民プールの設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正 就学援助認定（令和 7 年度分）について

② 活動の状況

ア 総合教育会議への出席

開催期日	協議事項
総合教育会議 R 6. 12. 17	○ 教職員の働き方改革について 1 上峰町立学校教職員の現状 2 上峰町の取組

イ 学校等教育現場への訪問

期 日	訪問先	期 日	訪問先
R 6. 4. 27	小学校土曜開校、PTA 総会	R 6. 11. 9	中学校授業参観、高校説明会
R 6. 5. 2	中学校授業参観、PTA 総会	R 6. 11. 9	小学校日曜参観、上小祭り
R 6. 6. 8	小学校土曜開校	R 6. 11. 13	東部教育事務所小学校訪問
R 6. 7. 12	東部教育事務所上峰中訪問	R 7. 3. 1	小学校土曜開校、送る会

ウ 視察・研修会等への参加

期 日	視察先・研修会名
R 6. 7. 5	佐賀県市町教育委員会連合会定期総会・研修会
R 6. 7. 25	三神地区教育委員会連絡協議会総会・研修会
R 6. 10. 17	佐賀県市町教育委員会連合会現地研修会

エ 各種会議・行事等への出席

期 日	会議名・行事名
R 6. 4. 1	教職員辞令交付式
R 6. 4. 11	上峰小・中学校入学式…町長、議長、評議員、教育委員
R 6. 4. 14	鎮西山ふれあいの森フェスタ（為朝ウォーク・トレイルラン）
R 6. 5. 19	2024 全障スポオープン競技ふうせんバレーボール大会
R 6. 6. 25	小学校稲作体験学習田植え体験活動
R 6. 7. 2～ 5	町青少年育成地区懇談会（19 公民分館）
R 6. 9. 14・ 9. 29	中・小学校体育大会（午前）町長、議長、評議員、教育委員
R 6. 10. 5	国民スポーツ大会開会式
R 6. 10. 7	上峰町青少年育成大会（アルモニア管弦楽団）
R 6. 10. 12～14	国民スポーツ大会～少年男子ソフトボール～（中央公園 G）
R 6. 10. 26～27	全障スポーツ大会～フットソフトボール大会～（中央公園 G）
R 6. 10. 26	中学校文化発表会…町長、議員、評議員、区長会長、教育委員
R 6. 10. 30	小学校稲作体験学習稲文字稲刈り活動体験
R 6. 11. 3	上峰町民文化祭演芸発表
R 6. 11. 5	上峰町子ども議会
R 6. 11. 16	学力向上フォーラム（3 町合同）
R 6. 12. 14	上峰町アスリート養成講習会
R 6. 12. 21	佐賀県出身プロ野球県人会少年野球教室
R 6. 12. 24	レオブラックス・レオナイナースバスケットボール教室
R 7. 1. 12	上峰町二十歳のつどい（第 74 回上峰町成人式）
R 7. 3. 5	佐賀ブルーナース上峰町マッチデー
R 7. 3. 7・ 3. 14	中・小学校卒業式…町長、議長、区長会長、評議員、教育委員

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	特別なニーズに対応した教育の推進		
事業名 ・ 取組名	スクールカウンセラー配置事業			所管課	教育課		
				費目	事務局費		
事業費 (千円)	1,974	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				472			1,502

目 標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題への対応は、学校において重要な課題である。このため、児童・生徒の臨床心理に関して高度な専門的知識・経験を有するスクールカウンセラーを派遣し、学校におけるカウンセリング機能の充実を図る。
実績等	小学校280時間、中学校280時間、スクールカウンセラーによる児童・生徒や保護者への相談活動、教職員への支援・助言、関係機関や地域の援助機関との連携等を行った。 対象者別件数 児童・生徒 127件(前年273件)、保護者 96件(前年87件)、 教職員 28件(前年64件) 事業費内訳 県費補助事業 280時間 1,424千円 (補助472千円 一財952千円)(小学校) 町費単独事業 108時間 550千円 (中学校) 県費負担事業 172時間 — (中学校)
成果と課題	小学校は、去年同様不登校や友人関係、発達障害等の問題についてのカウンセリング希望者が多い。医療に繋がった等成果を上げた。 中学校は保護者から学業や発達障害についてのカウンセリング希望が増えており、外部機関との調整や専門的な助言の重要性が高まっている。 児童・生徒やその保護者のカウンセリングをしたことで、ケース会議の実施に繋がった。 小学校の3学期後半は次年度に向けての相談が多く、年度中に予約が取れないことがあった。学校からも週1日勤務を希望されているが、勤務日の調整が課題。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	小学校は生徒と保護者からの相談件数が多く、中学校は保護者からの相談が増加している。県費補助事業に加え、町費単独及び県費負担事業の加算により、案件内容を丁寧にカウンセリングすることができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題への対応は、学校において重要な課題である。問題解決には、案件内容を丁寧にカウンセリングすることが重要である。予算の許す限り、時間を調整してカウンセリング機能をさらに充実させてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	特別なニーズに対応した教育の推進		
事業名 ・ 取組名	特別支援教育就学奨励費補助 要・準要保護就学援助			所管課	教育課		
				費目	教育振興費		
事業費 (千円)	9,713	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			1,237				8,476

目 標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を与えることにより義務教育の円滑な実施に資するため、次に掲げる費目を予算の範囲内で援助する。 (1)学用品費等 (2)校外活動費(宿泊を伴うもの・伴わないもの) (3)修学旅行費 (4)新入学児童生徒学用品費 (5)医療費 (6)学校給食費
実績等	特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を行った。 特別支援教育就学奨励費補助事業 小学校 42人 1,511,385円 (前年度 41人 1,501,798円) 中学校 17人 963,548円 (前年度 13人 753,880円) 計 59人 2,474,933円 (前年度 54人 2,255,678円) 要・準要保護就学援助 小学校 49人 3,251,243円 (前年度 47人 3,752,608円) 中学校 37人 3,986,564円 (前年度 27人 3,132,750円) 計 86人 7,237,807円 (前年度 74人 6,885,358円)
成果と課題	全児童・生徒の保護者宛に学校を通して、制度を知らせるチラシを配布することで制度の周知徹底を図った。認定に当たっても所得金額のみで一律に判断するのではなく、児童・生徒の日常生活及び家庭の諸事情について、学校等から情報収集を行うとともに、申告による所得確定後に再度調査を行い認定の確定を行った。認定にあたっては総合的に判断して認定することとなっており、周知及び受付時において今後も丁寧な取り扱いを徹底する。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	全児童生徒の保護者への周知徹底により、広く制度を活用することができた。 認定においても、教育委員会で適切に審議が行えるよう学校や民生委員からの情報収集に努めた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は保護者に対し、必要な援助は憲法上大事なことである。この事業の周知徹底と活用、及び認定においては教育委員会で適切に審議をお願いしたい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	時代の要請に応える質の高い教育の推進		
事業名 ・ 取組名	小中学校オンライン英会話委託			所管課	教育課		
				費目	先進的教育推進費		
事業費 (千円)	6,986	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							6,986

目 標	児童生徒一人ひとりに豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、グローバル化の進展の中、国際的視野と創意をもって文化の創造や産業の振興等に取り組み、社会や地域の発展に貢献できる、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	初等教育段階からのグローバル化に対応した英語教育を進めるため、平成27年度から取り組んできた本事業を令和3年度からは中学校(全学年)にも事業の拡充を図った。以降、小学3年生から中学校3年生まで7学年にわたり、英語圏(フィリピン)現地講師とリアルタイムで繋いだオンライン英会話授業を展開している。小学3年生はクラス一斉授業方式、小学4年生は3人1組のグループレッスン、小学5年生～中学3年生はマンツーマンによるオンライン英会話レッスンを実施している。
実績等	オンライン英会話授業の公立中学校での導入は佐賀県内初であった。小学校3年から中学校3年生まで7学年にわたる年間のレッスン回数は、小学3・4年は年間5回、5・6年8回、中学1・2年8回、3年6回。1コマあたりのレッスン時間は25分間である。事前に現地の担当者等とオンラインで毎回のレッスン内容の綿密な打ち合わせを行い、教科書や通常の授業内容に完全準拠したレッスンを行った。なお、今年度は英語力の検証のため、中学校3年生全員を対象に「英検IBAオンライン4技能」の受検を実施した。
成果と課題	今年度は中3全員を対象に「英検IBAオンライン4技能」の受検による中学生の検証を行った。英検IBA4技能総合の結果(8月)に加え、第2回英語検定結果(10月)を精査したところ、全中学3年生(101名)のうち、67名(66.3%)がCEFRのA1レベル(英検3級相当)以上と見なされることが分かった。これは、文科省が求める50%以上を大幅に超える良い結果と言える。 オンライン英会話で「聞く」「話す」力の育成を目指してきたが、得点分布等も参考に分析した結果、分野別の最低点でも300点前後に達していることなどから、学年集団としてこの2技能の力がついていることが分かる。7年間のオンライン英会話事業は児童生徒の英語力向上に大きく寄与していると言える。 中学校新学習指導要領(英語科)では、「話すこと」の領域、特に「即興で話す力」の育成にますます力を入れることとされている。オンライン英会話事業を中学校でも実施して4年が経ち、小学校で培ってきた土台を基に、求められる上記の力を小中連携して向上させる手立てが固まり、内容がますます充実してきたと言える。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	小中学校ともにレッスン内容の綿密な事前打ち合わせにより、より一層充実した楽しいものになった。本事業の具体的な評価方法の一つとして、中学校3年生で「英検IBAオンライン4技能」の受検を実施し、大変良い結果が出ている。来年度も継続して中3対象に実施する予定である。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	小中連携しての取り組みは、非常に重要性を秘めていると考えられる。実績及び成果から見ると非常によい効果が見られ、今後さらに継続してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	「生きる力」の確実な育成		
事業名 ・ 取組名	中学校放課後補充学習委託			所管課	教育課		
				費目	先進的教育推進費		
事業費 (千円)	10,711	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							10,711

目 標	生徒の基礎学力の定着、苦手分野の克服、学習意欲の向上、個性や才能を伸ばす機会を提供する。																																						
目的や内容	本町在住の中学生の基礎学力の定着、苦手分野の克服、学習意欲の向上、個性や才能の伸長を目指し、放課後を活用した学習塾、家庭教師及び文化・スポーツ教室、福祉サービス等学校外教育サービスの利用等にかかる助成を行う。令和2年度から上峰中学校以外へ就学する生徒も対象とした。また、令和4年度から中学2年生も対象とし、中学校全学年で実施している。																																						
実績等	平成30年度に開始されたスタディクーポンの手法を取り入れた中学校放課後補充学習においては、今年度も一人あたり3万円分(上峰中学校以外へ就学する生徒は1万5千円)の予算を確保し、生徒が希望した塾や習い事・福祉サービス等でクーポン(令和3年度より電子クーポン)が使えるよう事業者の登録を行い、中学校全学年で実施した。昨年度に引き続き「3万円専用コース」を設け、通塾等を始めていない生徒等が活用しやすいように工夫をした。8月・12月には「夏期・冬期講習」を学校で行い、利用先が未定だった生徒のうち43名が利用した。また支援の必要な生徒に配慮した「教材(書籍)購入」を利用した生徒は8名であった。 ○利用実績2024 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th><th colspan="2">中学1年生</th><th colspan="2">中学2年生</th><th colspan="2">中学3年生</th><th colspan="2">全体</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024(R6)</td><td>生徒数</td><td>116名</td><td>82.8%</td><td>99名</td><td>83.8%</td><td>101名</td><td>88.1%</td><td>316名</td><td>84.8%</td></tr> <tr> <td></td><td>利用人数</td><td>96名</td><td></td><td>83名</td><td></td><td>89名</td><td></td><td>268名</td><td></td></tr> </tbody> </table>											中学1年生		中学2年生		中学3年生		全体		2024(R6)	生徒数	116名	82.8%	99名	83.8%	101名	88.1%	316名	84.8%		利用人数	96名		83名		89名		268名	
		中学1年生		中学2年生		中学3年生		全体																															
2024(R6)	生徒数	116名	82.8%	99名	83.8%	101名	88.1%	316名	84.8%																														
	利用人数	96名		83名		89名		268名																															
成果と課題	今年度の成果としては、未利用者への配慮として、①夏期講習を追加し、長期休業中に「夏期及び冬期講習」を学校内で受講できるようにしたこと。②支援が必要な生徒への「教材(書籍)購入の許可」を継続し、通塾が困難な生徒の利用に配慮したこと。(①②の利用者数は合計51名。)利用満足度は向上しており、事後アンケートでは、生徒からは「学習時間・学習意欲・学校の授業の理解度が増した」、保護者からは「物価高騰の折、教育費に活用できてありがたい。」という声が多く上がっている。また、新規の事業者へのリクエストについても12件の登録が叶い、合計101事業者の登録(過去最多)となった。加えて、昨年度から取り組んでいる「教育委員会任せでなく保護者が自ら動く」という意識を高めることは達成できていると考える。 課題としては、利用率の更なる向上が挙げられる。今年度の上峰中学校は昨年度と同等となっているものの、目標として9割近くまでは到達したいと引き続き考えている。来年度は未利用者対策の工夫を重ね、未利用者の減少を図りたい。「クーポン額増額」の要望も毎年上がってきており、検討する必要があると思われる。																																						

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	・利用率(人数)はここ3年間85%前後。今年度は夏期講習を追加するなど未利用から利用に転じる生徒数増を狙った。また昨年度同様、保護者が自ら手配してサービス利用をさせようとする割合は高い。 ・アンケート結果から、「学習やスポーツ・習い事への意欲の向上」や「利用満足度の上昇」、「経済的援助への感謝」等の評価が全学年で多い。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	昨年度の成果と課題を踏まえ改善等が見受けられる。生徒及びその保護者からのアンケートからよい結果の声が出ていることは、この事業の関心の高いことがうかがえられる。さらにより良い方向に続けてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	「生きる力」の確実な育成		
事業名 ・ 取組名	学校給食費補助金 わくわく給食補助金 学校給食調理業務委託			所管課	教育課		
				費目	事務局費、学校給食費		
事業費 (千円)	81,774	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							81,774

目 標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	学校給食は児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである。 学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施により、学校給食の充実及び学校における食育の推進を図る。
実績等	学校給食及び食育の指導を次のとおり実施した。 ① 健康の保持増進のための適切な栄養摂取の必要性の理解を深める。 ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養う。 ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養う。 ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。 ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養う。 ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める。 ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導く。 また、わくわく給食として、食事を通して日本の伝統文化や食への感謝の気持ちを学ぶ「行事食」を行い、更に地域の食材、歴史、文化を反映した郷土料理を献立に取り入れた食育活動を行った。 ⑧米多浮立に合わせて11月を天衝monthとし「天衝米」(さがびより)を提供した。
成果と課題	栄養教諭を中心に、適切な栄養の摂取による健康の保持増進に努めることができ、残食も問題となるような量には至っていない。さらに、食物アレルギーに対して、児童生徒の個別の状況に応じて対応した。 ただ、食物アレルギー対応や異物混入防止対応は一日も気を緩めることは出来ず、組織的にも万全を尽くさなければならない。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	常に、異物混入防止に努め、さらに、学校給食の本来的目的である食育への取組について引き続き努力したい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	常に、異物混入防止や食物アレルギーに対して児童生徒の個別の状況に応じて対応されている。さらに、学校給食の本来的目的である食育への取組について引き続き努力されたし。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	教育環境の整備		
事業名 ・ 取組名	部活動指導員活用事業			所管課	教育課		
				費目	教育振興費		
事業費 (千円)	1,822	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				1,214			608

目 標	・ 種目ごとの専門的な指導による部活動の充実 ・ 顧問である教員の多忙化解消
目的や内容	部活動指導員の活用を通して、技術指導の専門性を高めるとともに、顧問の「多忙化解消」、「時間外勤務時間の縮小」を目的とする。 具体的には、部活動指導員の参加を前提に部活動計画を立てたり、部活動指導員と教員が交代で休業日を設けたりしながら、安全かつ効率的で効果的な部活動運営を確立する。
実績等	(1) 専門外教員補填のための部活動指導員による「競技力向上」 ・ 部活動指導員による平日の部活指導 ・ 部活動指導員による休日の部活指導、練習試合引率、大会引率・ベンチワーク (2) 時間外勤務時間(週休日)の縮減 ・ 部活動指導員と顧問による活動計画、引率計画の作成。 ・ 部活動指導員が指導する日は、顧問は他の仕事をしたり、週休日を休養に充て顧問の時間外勤務時間を削減。
成果と課題	(1) 専門外教員補填のための部活動指導員による「競技力向上」について ・ 陸上部、卓球部、剣道部、野球部、バスケットボール部、バレーボール部、吹奏楽部において、生徒の競技力等の技術が向上し、あいさつや礼儀、マナーなど、生活面についても学校と一体となった指導を推進した。 ・ 夏季中学校総合体育大会地区大会では、バスケットボール部が優勝、男子卓球部が団体3位、男子剣道部が団体5位でそれぞれ県大会に出場した。 ・ 陸上部は試合に向けて必要な練習計画を部員に合わせて作成している。 (2) 時間外勤務時間(週休日)の縮減について ・ 部活動指導員が単独で指導に入る日を増やすことができ負担軽減につながった。顧問の時間外勤務が減少した。 ・ 週休日に顧問がリフレッシュでき、その結果平日の仕事の質が向上している。 ・ R4年度に上峰中学校部活動地域移行協議会を立ち上げ、部活動指導員を主体として、R5年度からまずは週休日活動の地域移行に向けた取組を推進している。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	部活動指導員が単独で指導に入る日を増やすことができ、心身ともに教職員の負担軽減につながった。時間外勤務の時間数も減少している。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	部活動指導員が単独で指導に入る日を増やすことで、教職員の時間外勤務の時間数の減少につながり、部活動の充実や顧問教師のリフレッシュ及び教師本来の仕事の向上にも役立っている。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	教育環境の整備		
事業名 ・ 取組名	防音関連維持事業 小学校給食室空調設備更新工事实 施設計業務委託 中学校体育館屋根改修工事 中学校排水設備更新工事 小学校正門外灯設置工事 中学校体育館手洗自動水栓化工事			所管課	教育課		
				費目	施設整備費、学校管理費		
事業費 (千円)	14,089	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			2,713				11,376

目 標	学校施設・設備の老朽化や劣化への対応、設備や教材・教具の整備充実などを図る。		
目的や内容	老朽化や劣化する学校施設及び設備について、適切な維持管理に努め安全安心な学校生活を提供する。 通年の維持管理に加え、長期的な視点に立った施設設備の充実も推進する。		
実績等	小・中学校の維持管理について、次のとおり実施した。 ・防音関連維持事業(空調電気代助成) 4,303千円 ・小学校給食室空調設備更新工事实施設計業務委託 487千円 ・中学校体育館屋根改修工事 7,590千円 ・中学校排水設備更新工事 462千円 ・小学校正門外灯設置工事 825千円 ・中学校体育館手洗自動水栓化工事 422千円		
成果と課題	・中学校体育館屋根の雨漏りに対して、中学校体育館屋根改修工事を行い対策を行った。 ・老朽化した設備の更新として、中学校排水設備更新工事を行い、学校施設機能の維持を図った。 ・安全対策として小学校正門外灯設置工事を行い、外灯を新設した。 ・感染症対策として、中学校体育館手洗自動水栓化工事を行い、衛生面での環境整備ができた。 ・施設の維持管理については、点検報告等を基に、予防的な対応を含め適宜対応していく。		

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	小・中学校の施設・設備について、必要に応じ順次維持管理することが出来た。 中学校体育館屋根の雨漏りに関しては、完全な解決とはいえず引き続き対応が必要であると思われる。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	小・中学校の施設・設備について、必要に応じ順次維持管理することができていることは喜ばしい。中学校体育館屋根の雨漏れについては完全な解決とは至っていないというが、早めに原因を調べて対処されることを望む。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	時代の要請に応える質の高い教育の推進		
事業名 ・ 取組名	ICTを利用した教育 (GIGAスクール)			所管課	教育課		
				費目	先進的教育推進費、施設整備費		
事業費 (千円)	15,155	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							15,155

目 標	多様な子どもたちを誰1人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させるため、児童生徒1人1台端末を整備する。
目的や内容	GIGAスクール構想による一人一台タブレット端末を整備し、タブレット端末やタブレット用教材を活用した授業や家庭学習の充実を図る。
実績等	児童生徒1人1台端末整備により、令和5年度に引き続き端末で使用する教材及び授業支援ソフトの整備を行った。また、ネットワークの維持管理及びICT推進員によるサポート業務を行い、ICTを利用した教育を問題なく行える環境を整備した。 ・Wi-Fiルーター通信料 417千円 ・ネットワーク機器保守業務委託 2,741千円 ・ネットワーク設定変更業務委託 770千円 ・ICT推進員配置事業委託 5,874千円 ・ライセンス使用料(i-FILTER) 1,669千円 ・ライセンス使用料(Winbird) 1,379千円 ・ライセンス使用料(小学校) 1,246千円 ・ライセンス使用料(中学校) 1,059千円 ※小中学校のライセンスは、タブレットドリル、コグトレオンライン、トレンドマイクロエデュケーションパック、フィルタリングサーバーの総額
成果と課題	小中学校全児童生徒へのタブレットパソコン端末の整備が完了している。 事業者による帯域確保の支障となっている要因の調査(ネットワークアセスメント)による、学校のインターネット回線の帯域が不足しているとの結果を受け、ICTを利用した教育の更なる推進のため、今後対策を講じていきたい。 また、令和7年度にタブレットパソコン端末の更新を行い、小中学校での更なる端末活用を図っていく。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	小中学校において、より端末を活用した授業環境を整えることができた。しかし、ネットワークの改善等、今後も引き続きGIGAスクール構想への対応を行っていく。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	小中学校全児童生徒に一人一台のタブレットパソコン端末が整備されており、それを活用された授業や家庭学習の効果がたと聞いている。学校のインターネット回線の帯域が不足している点については今後の対応をお願いしたい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	「生きる力」の確実な育成		
事業名 ・ 取組名	上峰町放課後児童健全育成事業			所管課	教育課		
				費目	児童育成費		
事業費 (千円)	30,000	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			8,325	8,325		5,023	8,327

目 標	児童生徒一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。
目的や内容	昼間保護者等のいない家庭の小学校に就学している児童等の育成・指導に資するため、遊びを主とする健全育成活動を行う地域組織として放課後児童クラブを設置し、児童の体力増進、情操を豊かにするなど児童の福祉増進に資することを目的とする。
実績等	実施場所：放課後児童クラブかみみね 定員：135名 支援の単位：4単位 R6年度開所日数：平日239日、土曜日42日 R6年度月平均利用者数：133名 延べ利用者数：21,583名 【利用料】 放課後（月額）：3,000円、おやつ代：1,000円 春休み（期間）：3,000円、おやつ代：500円 夏休み（期間）：4,500円、おやつ代：1,000円 冬休み（期間）：3,000円、おやつ代：500円 土曜日利用：450円/1日 延長利用：100円/1日
成果と課題	放課後児童クラブを開所することにより、放課後及び長期休業期間の児童の居場所づくりができた。学校敷地内で実施しているため、児童が安全に学校から放課後児童クラブへ移動できた。 長期休業期間（夏休み、春休み）になると、平日の放課後には利用していない児童も申請があるため、定員の135名を超える申請があり待機児童が発生している。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	放課後及び長期休業期間に放課後児童健全育成事業を実施できたことにより、昼間に保護者のいない児童の健全育成活動を行う地域組織としての活動ができ、次世代を担う児童の福祉の増進と健全な育成が図られた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	放課後及び長期休業期間の児童の居場所づくりができたことにより、昼間に保護者のいない児童の健全育成活動ができ、体力増進、福祉増進に寄与できたことは素晴らしい。定員を超え待機児童の発生については今後考慮してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生涯学習関連施設の適正管理・利用促進		
事業名 ・ 取組名	町民センターの管理・運営			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育施設費		
事業費 (千円)	43,635	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						3,380	40,255

目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。
目的や内容	町民センターの適正管理及びサービスの向上に努め、利用促進を図る。町民センター周辺インターロッキング改修工事やホール照明調光操作卓等更新工事を行い、施設の環境を整備する。また、施設の使用については、引き続き利用促進を図るために、丁寧な対応を行い気持ちよく利用して頂く。
実績等	町民センターについては、SAGA2024国民スポーツ大会に合わせ、町民センター周辺インターロッキング改修工事を行い、また、施設内では、ホール照明調光操作卓等更新工事やギャラリー照明器具取替工事を行った。その他、屋内壁紙補修、エレベーター部品取替や蓄電池の修繕を行った。また、利用者が快適に利用することが出来るよう常に丁寧な対応を行ってきた。利用者数については、令和5年度32,066名から令和6年度32,356名へと増加した。
成果と課題	すべての町民が、安全・安心に利用できる環境づくりに向け、町民センター周辺インターロッキング改修工事、ホール照明調光操作卓等更新工事、屋内壁紙補修、エレベーター部品取替、蓄電池の修繕を行った。施設の劣化状況を鑑み、各種補修工事等を計画的に行う必要がある。また、今後についても様々な感染症拡大防止に留意し、町民が利用しやすく、人が集まる場所となるように施設利用の企画広報活動を行う必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	令和5年5月新型コロナウイルスの5類移行後も、感染状況を鑑みながら管理運営を行った。前年度より利用者数は増加し、年度当初の計画的な改修工事や突発的な補修、修繕に早急に対応して、すべての町民が安全安心に利用できる環境づくりを推進することができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	町民センターの適正管理及びサービスの向上に努め、利用促進が図られている。前年度より利用者数は増加し、年度当初の計画的な改修工事や突発的な補修や修繕に早急に対処され、すべての町民が安全安心に利用できる環境づくりを推進することができたことは素晴らしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	町民の自主的な学習活動の活発化		
事業名 ・ 取組名	ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー (公民館教室)			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	232	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							232

目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。
目的や内容	町民ニーズの動向や本町の特色・資源、社会・経済情勢の変化を踏まえ、特色ある講座・教室として、ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を行い、「日々元気で過ごしていきたい」「勉強になった」「参加して良かった」「学習したことを生活に役立てたい」と言われるような取組を行う。
実績等	令和6年6月からふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を16回実施し、延べ参加者数は、令和5年度870名から令和6年度646名へ減少した。昨年度に引き続き、土・日曜日開催を4回計画(吹奏楽、コンサート、ダンス等の公演)したが、7月の大雨による避難所開設により、吹奏楽コンサート(佐賀西高等学校)が中止となったことが主な参加者減少の要因となった。講座参加者の要望により、地元内科医による健康教室や町内在住の県学芸員による歴史教養講座も継続して開催し、好評であった。
成果と課題	令和5年度から再開した現地視察研修を今年度も実施し、好評であった。今後については、引き続き土・日曜日開催を計画し、実績を踏まえながら町民のニーズや声を反映させた内容を検討や講座内容の幅を拡げた計画を組み入れて学習の機会を充実させていく必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	昨年度に引き続き、土・日曜日の公演を実施したが、大雨による避難所開設に伴い、1公演が中止となったこと、講師との日程調整の関係で講座数が減少したことが参加者の減少につながった。今後についても内容の精査・充実に努め、安全・安心かつ魅力的な教室を開催していく必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	大雨による避難所開設に伴い吹奏楽コンサートが中止になったことや講師との日程調整の関係で講座数が減少し参加者の減少につながったことは残念だけど、住民一人一人があらゆる機会、あらゆる場所において学習することができる生涯学習社会の環境づくりは今後も続けてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成		
事業名 ・ 取組名	青少年育成地区懇談会 (青少年育成町民会議事業)			所管課	生涯学習課		
				費目			
事業費 (千円)	0	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、積極的に健全育成活動を推進していく。
目的や内容	地域のみんなで、子どもたちを守り育てるためにはどうすれば良いのかを考えるために、分館ごとに特に夏季休業を前に子どもたちの日常生活における情報や問題点を地区内において情報共有しながら、地域住民の青少年健全育成に関する意識を高める。
実績等	令和6年度については、全分館にて開催し、203名が参加した。開催方法については、分館長会において協議した結果、堤地区、前牟田地区は合同、坊所、江迎は各分館開催として、合計14箇所にて実施した。
成果と課題	地域の子どもたちの現状、育て方について考える機会を設けることにより、子どもの健全育成への意識が高く持てるようになると考えられる。令和7年度は、合同開催を含めた各19分館での懇談会を計画しており、より多くの方々(特に子育て世代)に参加していただくために、工夫を重ねて魅力ある懇談会にしていく必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	各地区の特性、事情等を把握しながら子どもの健全育成を協議することができた。今後については、地区懇談会の内容の精査・充実に努め、継続事業として開催していく必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	各地区の特性、事情等を把握しながら子どもの健全育成を協議することは大事なことです。地区懇談会の開催については子どもがいない家庭では学校からのお知らせがないのでわからない。回覧板で知ることができるけど、地区の実情により開催が終わってから見ることもある。この点は地区で反省すべきである。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成		
事業名 ・ 取組名	あいさつ運動を通した健全な社会環境づくり (青少年育成町民会議事業)			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	0	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、積極的に健全育成活動を推進していく。
目的や内容	あいさつすることが人と人との関わりの始まりであり、コミュニケーションの始まりでもあることから、町民一人ひとりがあいさつの意識を高揚し、地域ぐるみで機運を高めていくため、あいさつ運動に取り組む。 また健全な社会環境づくりのために、町内青少年防犯巡回パトロール活動により、小売店等に出向いて有害図書や酒・たばこの取扱状況を把握し、青少年への対応をお願いしながら推進していく。
実績等	小・中学校では、校門で先生方や児童・生徒があいさつ運動を行い、地域においては、通学路で交通誘導及びあいさつ運動を行った。子どもたちは積極的にあいさつができています。 青少年健全育成推進員による夏休み4回・冬休み1回の防犯パトロールや青少年サポート協力認定店運動に伴う町内11店舗への巡回点検啓発活動を行ったが、指導が必要な子どもたちはいなかった。
成果と課題	子どもたちから大人の方へ積極的にあいさつをしている。パトロール中に指導する子どもはいなかった。 今後も、あいさつの意識の向上に向け継続していく必要がある。また、防犯パトロールは青少年健全育成推進員の協力により、子どもたちの集まりそうな場所や危険な場所等を把握できる利点があり、引き続き実施する。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	小学校の登下校時の老人クラブや地区の見守り隊、ボランティアの方による交通誘導やあいさつ運動等、地域・学校・行政が連携した青少年育成活動を推進することができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	あいさつは心の窓とよく言われます。不審者の出現やコロナの感染予防等で挨拶運動は停滞したが、あいさつする子をほめることで徐々にではあるがあいさつする子が増える傾向にある。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成		
事業名 ・ 取組名	地域の教育力の向上			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	321	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				212			109

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、積極的に健全育成活動を推進していく。
目的や内容	青少年が家庭や学校以外でも同世代の青少年や異年齢の人々と交流し、自主性や社会性を育んでいくことができるよう、放課後子ども教室を開催し、放課後や週末における青少年の居場所づくりを充実させる。地域の指導者が、放課後の小学生を対象としていろいろな体験・経験できる教室を開催する。
実績等	インフルエンザ等感染症の感染防止対策を講じながら、放課後子ども教室及び土曜日こどものひろばを実施した。放課後子ども教室は、7月からゲートボール体験教室2回、プラ板アート教室2回、ネイチャークラフト教室1回開催して、延べ31名の参加者があった。土曜日こどものひろばは、7月から開始してパステルアートを10回、延べ80名の参加者があった。冬休み子ども教室については、プラ板アート教室及び生花体験教室を各1回開催し、21名の参加があった。
成果と課題	令和5年度と比較して、放課後子ども教室は2教室から4教室へ増え、土曜日こどものひろばは引き続き1教室開催した。参加者数は令和5年度155名から令和6年度132名へと減少した。教室の内容によって受け入れることができる定員が限られることや子ども達の興味関心やニーズに基づき、より充実した事業内容を検討していく必要があるものの指導者不足による定期的に指導していただける方の確保が喫緊の課題である。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	年間参加者は、令和5年度155名から令和6年度132名と減少したものの教室の数は、5教室から6教室へと増加したことにより、子どもたちの選択肢を増やすことができた。今後においても事業を定着させながら、充実した事業内容を推進する。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	地域の教育力の向上は積極的に健全育成活動の原動力につながります。当町が行っている放課後子ども教室や土曜日こどものひろばは有効な事業の一つです。子供たちの興味関心ニーズに基づき、より充実した事業内容を検討して指導者の開発を進めてはどうでしょうか。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ施設の整備充実		
事業名 ・ 取組名	スポーツ施設の整備・運営			所管課	生涯学習課		
				費目	体育施設費		
事業費 (千円)	31,728	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						11,189	20,539

目 標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。
目的や内容	中央公園や体育センターをはじめとするスポーツ施設(プール・武道館・テニスコート等)について、老朽化への対応や利用促進に向けた施設・設備の建替も含めた検討を行い、改修等を計画的に進める。 また、管理運営体制の充実を図り、利用者数の増加に向け、利用者が利用しやすい環境整備を進める。
実績等	町民プールについて、管理人室のエアコン取替工事147千円を行った。また、スポーツ施設の修繕として、 ・中央公園 大型複合遊具支柱取替、スピーカー取替、照明設備等、 管理棟シャッター ・体育センター ランプ取替、消防設備機器 ・武道館 消防設備機器、照明 ・町民プール 自転車小屋修繕等3,075千円を行った。
成果と課題	施設の修理は、利用者の安全を最優先に考え修理を行うことができた。引き続き日頃の点検を継続的にを行い、早めに対応できるようにする必要がある。 今後についても スポーツ施設の劣化状況等現状を把握しながら、中長期的な維持管理を行う必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ団体・指導者の育成		
事業名・取組名	スポーツ団体や総合型スポーツクラブへの支援			所管課	生涯学習課		
				費目	保健体育総務費		
事業費(千円)	2,624	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							2,624

目 標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。
目的や内容	社会教育育成補助団体として、スポーツ協会をはじめ自主的なスポーツ団体の育成・支援に努めるとともに、新たな指導者の発掘・活用に努め、町民のスポーツ活動の活発化を促進する。また、総合型スポーツクラブが自主運営組織として定着し、活発な活動が行われるよう、運営やクラブリーダーの育成について助言・支援を行う。 町内の競技団体14種目711名のスポーツ協会は、各種目競技団体への運営補助、県民スポーツ大会の選手の確保や出場手続き、町民スポーツ大会の運営など、本町におけるスポーツ振興の中心的な組織として活動している。総合型スポーツクラブ友遊スポーツかみみねについては、子どもから高齢者の方まで、多世代交流、心と体の健康、生きがいづくりと青少年の健全育成を目指し週5日開催している。
実績等	スポーツ協会については、各種目団体主催によるスポーツ大会の開催、県民スポーツ大会への出場調整等、スポーツ関連活動を行った。 令和6年度県民スポーツ大会については、SAGA2024国民スポーツ大会及びSAGA2024全国障害者スポーツ大会の開催に伴い中止となった。 事業費の内訳としては、スポーツ協会へ活動費899千円、友遊スポーツかみみね1,509千円、スポーツ少年団216千円の補助を行った。
成果と課題	令和5年度末にサッカー協会及びスポーツ少年団加盟の女子バレーボールがスポーツ協会から脱退したことにより、会員数が減少した。スポーツ協会及びスポーツ少年団の持続的な運営を行うため、新たな種目の登録等、会員数を増やす取り組みが必要となる。また、友遊スポーツかみみねについては、健康づくりスポーツ事業の拡充に伴う地域住民間の交流ができています。今後も多様な活動を展開し、幅広い年齢層の参加による地域コミュニティの核としての役割が担えるように事業を検討していく必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	スポーツ協会や友遊スポーツかみみねとの連携を行い、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなど地域スポーツの担い手としての役割を果たしていくために継続的な支援をしていく必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	スポーツ協会や友遊スポーツかみみねとの連携を行い、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなど地域スポーツの担い手としての役割を果たしていくために継続的な支援を推し進めてほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化芸術の鑑賞会と発表会の充実		
事業名 ・ 取組名	上峰町民文化祭 (上峰町文化協会事業)			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	1,394	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							1,394

目 標	文化協会等と連携し、町民文化祭の内容充実に努めるとともに、多様な文化・芸術を鑑賞する機会と活動成果を発表する機会の充実に努める。
目的や内容	文化協会21サークルの日常活動の最大の発表の場が町民文化祭であり、各サークルの目標になっている。この町民文化祭をより盛り上げるために、幼稚園児・保育園児、小・中学生、和太鼓、よさこいなど文化協会以外にも町民参加型により、多くの町民が発表会や展示会に参加できる裾野が広い文化祭を目指す。
実績等	11月1日から11月3日の3日間で第38回町民文化祭を開催し、作品展示では水墨画、生花、写真、書道、編物など約567点の作品の出展があった。演芸発表では、33演目で延べ378名の方々が熱演し、大いに盛り上がった。 令和6年度、文化協会への補助金338千円、町民文化祭作品展示パネル設営業務費用1,056千円を支出した。
成果と課題	園児から高齢者までの幅広い年齢層の文化活動の発表の場として、町民文化祭が賑やかに開催することができた。 文化協会会員の高齢化しているのが現状で、将来の文化協会の担い手となる新たな加入者をどうするか、また、新たな文化・芸術団体サークルの発掘が課題である。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	町民文化祭については、幼稚園、保育園、小学校、中学校から高齢者の方まで町民全員参加型の作品展示、演芸発表等の文化イベントの場として継続開催することができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	町民文化祭については、幼稚園、保育園、小学校、中学校から高齢者の方まで町民全員参加型の作品展示、演芸発表等の文化イベントの場として継続開催することができたことは、町にとっては素晴らしいことである。今後も継続してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	多様なスポーツ活動の普及促進		
事業名 ・ 取組名	SAGA2024国民スポーツ大会 SAGA2024全国障害者スポーツ大会			所管課	生涯学習課		
				費目	国民スポーツ大会推進費		
事業費 (千円)	35,197	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
				14,247			20,950

目 標	(1)上峰の魅力を全国に発信する大会 (2)上峰の特色を活かし、創意工夫を凝らした大会 (3)心のこもったおもてなしで創る大会 (4)生涯スポーツの推進とスポーツの力を発揮できる大会
目的や内容	各種目団体や関係機関と連携し、SAGA2024国民スポーツ大会及びSAGA2024全国障害者スポーツ大会が、選手・監督だけでなく、一般観覧者を含めたすべての方が楽しめる大会とする。
実績等	・SAGA2024国民スポーツ大会 デモンストレーションスポーツとして、6月1日にシャッフルボード(延べ参加者数:131名)、6月2日にクップ(延べ参加者数:147名)が体育センターで開催され、次に正式競技として、10月12日、13日の2日間、ソフトボール(少年男子)(延べ参加者数:1,354名)が中央公園多目的広場で開催された。 ・SAGA2024全国障害者スポーツ大会 オープン競技として、5月19日にふうせんバレーボール(延べ参加者数:407名)が体育センター及び中学校体育館で開催され、次に正式競技として、10月26日～27日の2日間、フットソフトボール(知的)(延べ参加者数:895名)が中央公園多目的広場で開催された。
成果と課題	SAGA2024国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会ともに、選手・監督、大会役員、競技役員及び一般観覧者等、多くの方に来町いただき、盛会のうちに大会を終えることができた。また、大きな事故やケガもなく、安全・安心な大会運営を行うことができた。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	48年ぶりの県をあげた一大イベントで、多くの方に来町いただき、また、安全・安心な大会運営を行うことができた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	昭和51年の佐賀国体以来48年ぶりの県あげての一大イベントで、多くの方に来町いただき、安全安心な大会運営が出来たことは大変喜ばしいことです。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	町内遺跡確認調査事業(試掘)			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	3,384	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			1,525	610			1,249

目 標	指定文化財の適正な保存及び維持管理に努めるとともに、その他の文化財や埋蔵文化財についても、調査体制の充実のもと、発掘調査等を推進し、その保存・活用を図る。
目的や内容	国庫補助事業の適用を受け、町内全域における開発行為に伴い事前の埋蔵文化財確認調査を実施。この調査により開発対象地区内の埋蔵文化財について概要を把握し、開発と埋蔵文化財保護との調整を図る。
実績等	開発届出等件数38件のうち、確認調査実施件数は16件であった。記録保存のための本調査については、0件であった。 また、令和5年度実施分の調査について、整理作業を実施し調査報告書を刊行した。
成果と課題	・開発に伴い、事前の埋蔵文化財確認調査を実施し、工事立会や慎重工事の指示を行い、文化財保護との調整を図った。 ・今後の課題として、無届着工の開発について適正に対処する必要がある。 ・文化財保護法の規制外となる「周知の埋蔵文化財包蔵地」外の開発行為について、鳥栖・三神地区内で対応を協議し、一定の基準を整備する必要がある。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	開発に伴う事前の埋蔵文化財確認調査の実施し、工事立会や慎重工事の指示を行い、文化財保護との調整が図れた。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	開発に伴い、事前の埋蔵文化財確認調査が実施され、工事立会や慎重工事の指示を行い、文化財保護との調整が図られている。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	民俗芸能等伝統文化事業			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	479	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							479

目 標	米多浮立やみやき町の西乃宮浮立などの無形民俗芸能等伝統文化財について、保存団体の育成・支援や環境整備等を行う。
目的や内容	米多浮立やみやき町の西乃宮浮立などの無形民俗芸能等伝統文化財について保存団体の育成を行い、積極的な保存・伝承に努める。 また、米多浮立奉納会場周辺に便益施設(駐車場、トイレ、総合案内板など)を整備するために、用地交渉を行う。
実績等	○米多浮立保存会商標使用料 411千円 米多浮立保存会へ奉納、運営経費等として、ふるさと納税事業での「天衝米」の名称使用に伴い商標使用料を支払った。 ○米多浮立奉納会場周辺整備用地の用地交渉 老松神社北側の2筆分、計1,248㎡の用地の交渉については、地権者との土地売買確約書の取り交わしが終了し、令和7年度に購入する予定である。瑞応寺跡の2筆分、計127㎡の用地の買収については、令和7年度に交渉を行い、購入する予定である。 ○みやき町西乃宮伝統文化保存会補助 68千円 令和6年10月20日にみやき町西乃宮八幡宮で神事が執り行われた。浮立は中止となったが、みやき町西分地区が担当で華やかな衣装をまとった女の子による可憐な稚児舞が奉納された。
成果と課題	令和5年度に4年ぶりに浮立が奉納されたが、後継者が数少なく出演者が不足している状況だった。特に、中高生や20～30歳代の若手の後継者育成が急務である。また、人材不足から神輿の担ぎ手が配置できず、奉納の際には軽トラックで移動したが、神輿を運搬するための台車の購入も必要である。 小・中学校の「総合的な学習の時間」において講義を行い、米多浮立に対する興味・関心を喚起し、保存伝承と後継者育成に努めている。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	保存団体の育成として、「天衝米」の名称使用に伴い、商標使用料を支払っている。 補助事業等を活用し、装備品等を補修・購入するための申請手続きの補助に努めなければならない。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	無形民俗芸能等伝統文化財についての保存団体の育成・支援は後継者不足の解消が不可欠である。現在少子化問題もクローズアップされている中でもあるが、積極的な保存・伝承に努力されたし。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	町内文化財普及事業			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	227	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							227

目 標	文化財説明看板の設置やリーフレットの作成などを行い、町内の文化財や歴史について多くの人に周知する。
目的や内容	町内における文化財の保護、次世代へ継承、また地域の活性化、観光振興などを目的として、文化財説明看板の設置やリーフレットの作成・配布などを行い、町内の文化財や歴史に関する普及活動を行う。
実績等	○野間口船着場説明板設置工事 139千円 西前牟田区長より、明治時代中頃まで米や石炭などの物資の運搬が行われた野間口船着場を後世まで伝えたいと説明看板設置の要望があり、野間口地区集会所に説明板を新設した。 ○「佐賀県史跡 船石遺跡」リーフレット印刷 88千円 県指定史跡の船石遺跡について広く周知することを目的に、リーフレットの原稿作成を実施し、1,000部印刷して発行した。
成果と課題	新たな文化財説明看板の設置、リーフレットの作成・配布にとどまらず、地元地域の文化財にまつわる散策ルートの策定を行い、地域住民の歴史や文化に対する理解を深めていきたい。また、ワークショップや体験学習、歴史講座、特別企画展など、地域の文化財や歴史に親しむ機会や情報を提供していくことで、文化財の保護に対する意識の向上や、活用の促進を図っていきたい。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	新たな文化財説明看板の設置、リーフレットの作成は実施できた。今後は、新設した看板や新作のリーフレットを活用し、幅広い文化財普及ができるよう努めていきたい。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	文化財説明看板の設置、リーフレットを作成し、町内の文化財や歴史を多くの人に周知させることは郷土を愛し発展させることにつながることだと思います。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

令和6年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生涯学習関連施設の適正管理・利用促進		
事業名 ・ 取組名	ふるさと学館の充実			所管課	文化課		
				費目	ふるさと学館費		
事業費 (千円)	17,165	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							17,165

目 標	管理運営体制を拡充し、展示内容の充実や企画展・特別展の開催、学校教育との連携、各種歴史・文化講座・読み聞かせ講座の開催等を進め、本町の歴史・文化の研究拠点、情報発信拠点として機能の強化を図る。
目的や内容	町民のニーズに即した蔵書の充実 子どもの集いの場、生涯学習拠点として機能強化を図り、幅広い年齢層へのサービスを提供し、利用者増を図る。
実績等	蔵書冊数は、計画的購入により、令和2年度(57,490冊)・令和3年度(57,926冊)・令和4年度(58,181冊)・令和5年度(65,125冊)・令和6年度(66,763冊)と毎年増冊している。 貸出冊数は、令和2年度(35,676冊)・令和3年度(42,668冊)・令和4年度(44,049冊)・令和5年度(42,925冊)・令和6年度(42,471冊)となり、前年度実績をわずかに下回った。 利用者数は、令和2年度(6,125人)・令和3年度(7,477人)・令和4年度(7,681人)・令和5年度(7,515人)・令和6年度(7,782人)となり、前年度実績を上回った。 郷土資料館の展示室は、令和2年度に子ども支援センターとして改修したため閉鎖中である。
成果と課題	・貸出冊数については前年度実績よりわずかに下回ったが、利用者数については前年度実績を上回った。貸出冊数が減少した点については、今後、読書の習慣づけと楽しさを広め、「家読」の推進や図書館利用の促進を図らなければならない。 ・これまで子供たちの成長段階に応じて実施していた、「ファーストブック事業～出会い～」(4か月児対象)、「セカンドブック事業～ふれあい～」(3歳児対象)に続いて、令和6年度より小学生1年生を対象に「サードブック事業～絆～」を開始した。3つの事業をまとめて、「上峰町絵本大好き応援プロジェクト」としている。どの事業も絵本とバッグを贈るもので、絵本を通じて、子どもの読書週間の定着、家庭での読み聞かせと家読など、図書館利用の推進効果を期待している。 ・閉鎖中の展示室の代替施設等について検討しなければならない。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	利用者数は前年度実績より上回ったが、貸出冊数は前年度実績よりもわずかに減少した。貸出冊数が前年度実績を上回るためには、「家読」の推進や図書館利用の促進などを意図した図書館事業の運営に取り組む必要がある。
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	

学識経験者 評価	評価の結果	町民のニーズに即した蔵書の充実や子どもの集いの場、生涯学習の拠点としての機能強化が図られ利用者数も増加の傾向にある。
	達成	
	概ね達成	
	やや不十分	
	不十分	